

「第1回 小松天満宮整備計画評価委員会」の審議結果(議事速報)について

去る、平成19年3月6日(火)に、小松市内で『第1回小松天満宮整備計画評価委員会』が開催され委員長に大阪大学町村助教授が選出されました。また、会議では事務局より本委員会の規約・運営方針並びに小松天満宮周辺の気象観測データ等を今後検討をすすめる環境影響評価項目について説明があった後、各委員による審議が行われました。主な意見は次のとおりです。

出席委員：全5名中5名出席 印は委員長

氏名	専門分野	所属
町村 尚	微気象学	大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 助教授
松枝 章	植物学	愛樹技術士研究所 所長
関戸 信次	地下水	小松市文化財調査委員会委員長
中森 勉	建築学・文化財	金沢工業大学環境・建築学部建築系 助教授
鈴木 洋之	河川工学	石川工業高等専門学校 環境都市工学科 講師

議事内容

- (1) 小松天満宮整備計画評価委員会規約に関する事項
- (2) 委員長選出に関する事項
- (3) 委員長挨拶
- (4) 小松天満宮整備計画評価委員会運営方針(案)に関する事項
 - ・委員会の公開について
 - ・委員会の今後の進め方について
- (5) 小松天満宮周辺の整備計画について
- (6) 環境影響評価を行うための気象データ等について
- (7) 河川改修による小松天満宮周辺の環境影響評価項目について

議事速報(主な意見)

[各委員からの意見について]

小松天満宮整備計画評価委員会規約に関する事項

全委員承認

委員長選出に関する事項

大阪大学 助教授 町村委員選出

小松天満宮整備計画評価委員会運営方針(案)に関する事項

・委員会の公開について事務局案で承認

- ・委員会の今後の進め方について事務局案で承認

小松天満宮周辺の整備計画について

- ・輪中堤の形状などについては、確定しているのか
過年度に模型実験等を行っており、その結果に基づいて設計を進めている。
- ・どのくらいの雨量を想定しているのか。近年の想定外の雨量にも対応しているのか
梯川の河道計画は 100 年確率 208mm/日の雨量に対応しており、100 年確率までの雨は、構造物で対応し、それ以上の降雨に対しては、ソフトの防災対応を行っていくといった方針となっている。
- ・護岸の深さはどの程度か？
矢板が約 30mの深さの支持地盤まで入っており、液状化の対応も考慮されている。
- ・完成まで 10 年という長い期間であるが、早急な河川改修が必要と思われるので短縮できないか
橋梁架替・水路付替・市道付替などの様々な工程があり短縮することは困難

環境影響評価を行うための気象データ等について

- ・気象や風の調査に関しては、アメダスや境内で観測されており、妥当な調査であると考えられる。
- ・一般的に、木造家屋に対しては、雨風と湿度が影響すると考えられるが、現在の状況を見ると良好な状態が保たれていると考えられる。その他、海が近いため必須ではないが塩害についても確認しておいた方がよい。
- ・建築施設に対しての影響を考慮した場合、風については、現状と大きく変化させないことで対応が可能だと考えられる。
- ・本殿下の湿度が低いのは、高床となっているためと考えられる。
- ・日本の木造の建築物は、部分毎に補修が可能でところが良いところであり、天満宮も近年改修され、良好な状態を維持していると思われる。
- ・地下水が独立しているのが宙水であるかは現段階では判断できないため事務局提案の追加の調査を行い十分に把握したほうが良い。
- ・シルト分が多く、水分を蓄える土質の性質を持っている可能性があるため、現在調査済みの深度よりさらに深い部分の地質調査をおこなってみてはどうか。
管理者（小松天満宮）と相談して実施について検討したい。
- ・天満宮は、マツ、ウメがシンボルとなっており、保護していく必要がある。酸素分の少ない地下水は植物の生育に影響する可能性があり、地下水は動きがある方がよい。
根の伸張する深さは地表から 1.5m 範囲程度であるため、少なくとも 1m 程度は良好な状態を確保する必要があり、地下水が上がらないように対策を講じる必要がある。
- ・植物については管理者の意見を聴くことも必要

河川改修による小松天満宮周辺の環境影響評価項目について

- ・風のシミュレーションの精度評価については、現在の方向で問題ないが、建物に影響がある強い風についてもシミュレーションして欲しい。また弱風のシミュレーションを行い風が滞留する箇所拡大があるかどうかについて確認する必要がある。
- ・植物にとっては、風が弱すぎると、葉の病気が発生することがあり良くない場合がある。

- ・建築物にとっては、強い風は影響があり、輪中堤の整備後の変化を把握し、対応していく必要がある。
- ・境内の降雨や蒸発散など地下空間の水収支については、現在把握している観測データを用いて分析することは可能である。

[今後の進め方について]

今回は、平成 19 年の夏ごろを予定する。

参考人の必要性は委員会で審議される内容により判断する。

以 上

お問合せ先

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所

調査第一課長 万 行(まんぎょう)

TEL 076-264-8800(代) (内線)351